

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2017

中央大学 商学部

(試験時間 80 分)

A 入試概況

商学部の試験は学科単位で経営、金融で1日、会計、商業/貿易で1日と2日間用意されている。年度によって募集人員が異なるため、単純な方式別の経年変化を分析することはできないが、2017年度入試の結果を見る限りは、募集単位が一番大きいこともあり、経営が一番人気である傾向は変わらない。この経営は2015年度は一般入試で110の定員だったが、2016年度の受験者急増し、倍率は4.0から7.4と3ポイント以上押し上げた。その影響を受けてか2017年度は同方式で25名増の135名とした。2017年度は1509人と落ち着いたものの、定員充足率の厳格化にともなって合格者が絞られ、以前高い倍率を維持している。商業/貿易の一般入試も2016年に定員を15名増やしたところであり、経営ほどではないものの人気が高まっていると言える。受験者が増えているのを見ると敬遠してしまいそうだが、2016年度、2017年度の入試動向では「C判定以下の層の増加が目立ち、大きな難易度の変化はない(=合格ライン以上の層は変わらない)」という分析があったので、弱気にならずに挑みたい。

中央大学は以下の表のとおり、一般入試に限らず多くの入試方式があり、一般入試以外で3~4割の募集単位が確保されていることを考えると、上位志望とする生徒は複数の可能性を探りたい。ただし、センター方式は併願では募集単位が少なく、また単独3科は早慶上智の私立受験者、単独4科は国公立受験者が抑えにくくもあるため、一般受験で十分に勝負できる余裕がなければ安易な受験は勧められない。

2017年度入試 方式別の募集人数と倍率

		一般入試 フレックス		一般入試 フレックス +1		統一入試		センター 併願		センター 単独3科		センター 単独4科	
		募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率
商	経営	135	7.5	20	11.6	73	5.8	11	6.2	25	4.9	16	3.4
	会計	120	4.5	40	5.6			13	5.6	30	3.9	20	2.1
	商業/貿易	125	5.4	20	7.0			10	5.8	25	4.8	16	3.2
	金融	40	5.9	16	4.5			6	5.5	10	3.1	8	2.6

*フレックス+1は第二外国語の履修や専門課程の単位認定が通常と異なる(一般的にメリットと受け取られる部分が多い)。

*統一入試はフリーメジャーで学部一括募集。

過去3年間の受験者数、合格者数、倍率 一般入試フレックス方式のみ

		2017年度入試			2016年度入試			2015年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
商	経営	1,509	200	7.5	1,892	256	7.4	1,084	274	4.0
	会計	968	214	4.5	845	228	3.7	989	202	4.9
	商業/貿易	1,126	207	5.4	923	226	4.1	970	240	4.0
	金融	690	117	5.9	509	185	2.8	417	136	3.1

過去3年間の合格者の平均得点 (%) 一般フレックス方式のみ

		2017年度	2016年度	2015年度
商	経営	64.0	63.0	58.9
	会計	60.4	58.9	59.4
	商業/貿易	61.5	59.5	59.5
	金融	62.7	60.9	57.7

上記は3科目合計の合格者平均点である。60%前後と低いが、英語は最低でも6割半、できれば7割を目指したい。フレックス+1方式は得点率が3~5ポイントほど高くなり、倍率と共に難易度も上がる。

B 英語試験の概況

難易度は MARCH の中では易しめ～標準であり、MARCH の基礎演習としても使えるものだろう。長文のレベルは標準で設問もストレートであり、難解なものもなくとても良問であると感じた。またライティングが課されていることも含めて、バランスが取れた出題だと感じた。一方、文法はこのレベルにしては少し簡単すぎるかもしれない。いずれにしても全体としてひねくれた問題はなく、勉強してきたことをストレートに出せばよい。

時間は 80 分。復習も含めて、十分に余裕があると思われるが、最後のライティングに適切に時間を使うように心がけよう。テストの構成は大問が 6 つあり、大問 1 と 2 は 550 から 700 語程度の長文問題が出される。大問 3 は 250～350 語の対話文における空所補充となっている。大問 4、大問 5 は単語、文法をターゲットにした問題で、大問 6 に 80 語の英作文となっている。

まずはセンター試験の対策、MARCH レベルの併願校の問題を多く説くことを進めたい。長文の出題の在り方や英作文があるところなどは明治学院大学と似ているところがあり（ただし明治学院には大問 3 に 200 字の要約がある）、練習として活用してみるのもよいだろう。

最初の 2 題で 150 点中 90 点、大問 3 の対話も含めると 110 点となる。読解で落とすことのないように、90 分をしっかりと使って、紛らわしい問題を 1 つでも多くとれるようにしていきたい。

【時間の目安と難易度】

	内容・語数	時間	難度
1	読解問題： 550～700 語程度	18～22	B
2	読解問題： 550～700 語程度	18～20	
3	対話問題： 250～350 語程度	8	A/B
4	単語・語法問題： 4 択空所補充	4	A
5	文法問題： 並び替え	6	A
6	英作文	15	B

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

大問 1&2

【2017年 経営／金融】

次の英文を読み、設問に答えなさい。

On December 5th, 2015, the President of Colombia, Juan Manuel Santos, announced the greatest treasure find ever, the long-lost Spanish ship *San José* which had been sunk by British warships in 1708, loaded with gold, coins, and precious jewels, thought to now be worth up to US\$17 billion. The treasure had been intended for France, Spain's ally, to pay for its war against Great Britain.

What will happen to the *San José* treasure is an open question. An American company claims that it originally located the ship in 1981 and says that because of this, it is owed half the treasure aboard, although Colombian courts have rejected this claim. Other countries think they should have the treasure. Spain has claimed its right to the *San José* and its contents — it was a Spanish military ship sunk in an act of war, according to the Spanish foreign minister. 中略

問 1 本文の内容と一致するように 1～10 の語句に続く最も適当なものを(A)～(D)から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。

1. The *San José* was

- (A) intended to be sold to France. (B) a Colombian ship.
(C) found in December 2015. (D) attacked by British ships.

2. According to the international agreement mentioned in the second paragraph, shipwrecks belong to the country

- (A) where they were found.
(B) where their goods originated.
(C) where they originally came from.
(D) that found them.

問 2 本文中の下線部を、太字の“it”と“this”それぞれが指すものが分かるように日本語に訳しなさい。解答は記述解答用紙に書きなさい。

【形式】

2017年度は、大問1、大問2ともに550～700語程度の長文に対して4択の内容把握問題が10題出されている。さらに大問1のみ下線部の和訳問題が1つ出題されている。大問1については以前からこの形式で出ていたが、大問2は2017年度は形式の変更が見られる。2016年度までは、内容把握が7問(問1、問4合計)に加え、前後関係を読み取る空所補充が3問、指示語の問題が3問となっていた。2017年度は大問2も大問1に合わせ、内容把握10問に統一をしてきた。

2016年まで大問2で見られた形式

【2016年】

問2 本文の空所(1)～(3)に入る最も適切な語を、それぞれ(A)～(D)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

1.

(A) essential (B) efficient (C) expensive (D) extraordinary

中略

問3 本文中の下線部(ア)～(ウ)が指している内容を最もよく表している語句を(A)～(D)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

(ア)

(A) many people (B) many foods (C) many insects

(D) many species

中略

【分析】

まず問2は形式変更にも多少変化が見られたものの、大きな影響はない。単語レベルの細かい把握は大問3に集約し、長文は純粋に読む力・内容把握力の評価に特化したいという意図かもしれない。2018年度が同じ形式のままなのかは分からないが、問われる力は変わらず、どの形であっても落ち着いて解きたい。文章自体は難しくなく、大意を取ることは苦労しないだろう。また550語程度の場合もあり、長期的にも取り組みやすいものと言える。

【アプローチ】

話の流れや区切れがつかみやすく、設問も本文の順を追って出てくるため、事前に設問を見ておなくても十分に解けるだろう。また、設問は短いため、分かりやすいが、その一方、具体的なヒントにならないものもある。しかし、そうは言っても、読む前に注目すべき点をいくつか抑えておくことはプラ

スで、時間もかからないため、さらっと目を通しておくことが良いだろう。

私自身も 4 題解く中で、事前に設問に目を通すやり方と目を通さずにいきなり読む方法と 2 通りを試してみた。結果的には大きな差異はなかったが、やはり設問に目を通していた時のほうが、ポイントの整理が気を楽しんでできた（それがより正解につながったかどうかは別であるが）。私が事前に設問に目を通した時間は 1 分弱であり、それぐらいの時間の投資で「気楽に読める」と少しでも感じるなら、それが思い込みであったとしても悪いコストパフォーマンスではない。しかも設問のリード文が単純なので、ミスリードされることもない。もし皆さんが複数回過去問を解く中で、私と同じ感覚を持ったならぜひ事前に設問を見ておくといいだろう。

時間はできれば 18 分、長くても 20 分ぐらいに収めたい。700 語だとして、First Reading は 8 分、解くのが 12 分ぐらいだろうか。大問 1 は和約が入るが、プラス 2 分ぐらいで設定してみよう。設問の答えは First Reading だけで見当のつくものかなりあるが、紛らわしい選択肢が入っている問題も一定数あり、そこで点数を落としてしまうことが多い。First Reading で答えに目途をつけつつも、あいまいな部分は Second Reading で確認しながら解いていくこと。

【MAX 感想】

長文はまさに MARCH 標準レベルだと感じた。英語自体のレベルもあるが、話の進み方やロジックもストレートで、このぐらいは First Reading で大意がとれるようにしたい。多少理解しづらい部分もあるが、なんとなくの意味がとれていたらそこにとらわれず読み流して、設問に関係ありそうであれば、Second Reading でとらえていくようにしよう。

選択肢については、紛らわしいものもあると感じた。私も 2017 年度の問題を 2 セット解いたが、最初のセットは、First Reading を読んだ後はほとんど確認をしないで、「あー、これだった」とサクサク解いていった。手ごたえもあり、自信もあったのだが、丸付けしてみると意外と間違っているものが 10 問中 3 問もあって、??? とキツネに目をつままれたような気になった。見直してみると、単純に First Reading の中身だけで判断して、紛らわしい選択肢に引っかかったり、該当箇所を読み違えているものだった。例えば、2017 年の会計／商業・貿易の大問 1 で "Attitudes in Australia toward Utzon changed when the Opera House ..." という問いがあるのだが、本文中では "As the Sydney Opera House became universally recognized as one of the world's great building – it was named a World Heritage Site in 2007." となっている。それを First Reading だけで読むとどうしても World Heritage Site というのが頭に残るので、"was named a World Heritage Site" という選択肢を「はいはい、これね」と選んでしまった。しかし、読み直してみるとそれよりも 世界遺産と named されたわけじゃなくて、nominated されたわけだし、全体的な意味としても "received recognition as a great building" という選択肢のほうが正しいし、という風にさらっととらえてしまった。

2 セット目ではそれを注意して、気になる選択肢は Second Reading で見直してみた結果、全問通して 1 問間違っただけで済みました。First Reading で答えのめどをつけるのは大切だが、紛らわしい選択肢、本文箇所があるので、Second Reading でしっかり解答根拠を見直しながら答えていくことが正答率を高めてくれるだろう。ただ、7 割がたは First Reading のストレートな感覚で正解を導けるので、全てに疑心暗鬼にならずに、効率よくチェックをしていくように心がける。正解の目安はそれぞれ 7 問を死守ラインとして、2 題合計で 15 問は正解したい。和訳は平易なのでしっかりとること。

MAX 所要時間 13 分。設問に目を通すのに 1 分弱。First Reading が 5 分弱、解答に 7 分。

大問 3

【2017年 経営／金融】

次の対話を読み、空所(1)～(10)に入る最も適切な語句をそれぞれ(A)～(D)から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。

Jason : Hi Scott. I'm surprised to see you. I thought (1) be at work now.

Scott : I am at work. I don't have an office because I work at home.

Jason : Oh — how do you manage that? How do you meet with colleagues?

Scott : I don't — our company has four hundred workers, but I've only met nine of them in person. We live all over the world.

Jason : So how do you hire them?

Scott : We do everything remotely. It's actually better, because it means we can get the best people in the world, not just those who (2) to live within 50 kilometers (3) of our office.

Jason : Doesn't it feel (4)? One of the things I like about work is seeing my colleagues and sometimes going out for a drink after work.

Scott : I do miss it, but I have an eight-month-old son and I like being able to spend time with him in the evenings.

Jason : How do you pay your (5)?

1.

(A) you'd (B) you'll (C) you're (D) you

2.

(A) tend (B) happen (C) enjoy (D) always

3.

(A) approximately (B) about (C) or so
(D) distant

4.

(A) lonely (B) alone (C) loneliness (D) lone

5.

(A) cast (B) casts (C) staff (D) staffs

【形式】

250 語程度の対話に対して、4 択式の空所補充が 10 問出される。

【分析】

形式は対話であるが、会話表現をとるものはほとんど見当たらず、話の流れの中から正しい語を選ぶ、というもので、一般の読解問題としてとらえられる。多少、文法の問題も入るが、どちらかという単語を文脈の中から判断する問題としてとらえたほうがよさそうだ。英文は平易で読むのに苦労はしない。選択肢の単語は多少考えるものもあるが、普通の単語の意味と熟語表現で答えられるものがほとんどだと感じた。例えば、2017 年の会計／商業・貿易の *be spoiled* は、「甘やかされている、ダメなやつにそだっている」という意味で、会話で当たり前のように使われるもので英語に慣れている生徒は感覚的にわかるものだが、単語帳的な意味しか分からない場合は答えづらいかもしれない。そのあたりの単語知識を多く読み、多く解く中で磨いていきたい。

【アプローチ】

まずはいきなり答えずに **First Reading** して全体の意味をとること、と言いたいところだが、この問題については、話の流れが分かりやすく、解答を探しながらでも読解がさほど邪魔されないので、読みながら解いていくこともあり。その代わり解き終わったあとに、見直しとして選んだ答えを入れて、通して読んでみて、意味が通じるか、文法的に正しいかを確認する作業をいれる。ただし、もし読解が途切れて意味が取りづらいのであれば、**First Reading** では問題を解かずに大意をとることに集中する本来の読み方に戻すべきである。また王道としては **First Reading** をちゃんとする事なので、普段の学習では極力その読み方を大切にすること。

【MAX 感想】

私も①**First Reading** で大意を取ってからというやり方と、②いきなり解くという読み方、③パラグラフごとに解くというやり方をそれぞれ試してみたが、一番やりやすかったのは②だった。早稲田文学部、文化構想学部の大問 1 などは文章も難しく、パラグラフの意味を理解できないと空所も埋まらないものがあり、①のやり方でないとできないが、この問題については②で速さと正確さが担保できるのならそれもありだろう。目安は 8 問正解。配点が各 2 点と低い部分であるが、最低でも 7 問は死守したい。

MAX 所要時間 5 分。

大問 4

【2017年 経営／金融】

次の英文 1～6 の()に入る最も適切な語句を(A)～(D)から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。

1. In the long (), your efforts will pay off.
 (A) course (B) end (C) run (D) result
2. Since trains are () to be delayed during rush hour, you should leave home early enough.
 (A) liable (B) tend (C) reliable (D) responsible
3. To () up, I would like to go over the key points.
 (A) conclude (B) add (C) come (D) sum

大問 5

【2017年 経営／金融】

次の 1～6 の日本語に合うように、それぞれ下にある(A)～(F)の語句を並べ替えて、空所を補い、英文を完成させなさい。ただし、解答は(1)～(12)に入るべき語の記号のみをマークしなさい。なお、文頭の語も小文字で記してある。

1. 忠実な顧客からの支持を失うことのないよう、その企業は販売促進キャンペーンを開始した。
 The company launched a promotional campaign () () ((1)) () ()
 ((2)) its loyal customers.
 (A) as (B) lose support (C) to
 (D) from (E) so (F) not
2. 手短かに話すと、私は結婚していて、二人の子供がいます。
 () () a () ((3)) (), I am married ((4)) two children.
 (A) with (B) short (C) to (D) long (E) make
 (F) story
3. 私たちがどれほどあなたのことを心配していたか、見当もつかないでしょう。
 () () () ((5)) () ((6)) been about you.
 (A) we have (B) you have (C) how (D) idea
 (E) no (F) anxious

【形式・分析・アプローチ・MAX感想】

大問 4 は 4 択の空所補充、大問 5 は並び替えである。

ともに平易でセンターと同等レベルと言えるだろう。大問 4 はターゲットレベルの単語と熟語表現、センターレベルの語法、文法を固めていれば対応できる。大問 5 も難しい構文は問われず、日本語と合わせながら、選択肢で基本構文を作っていけばよい。熟語表現を問われているものもあるので、選択肢を見ながら判断しよう。

この大問 4 と 5 は簡単な出題であり、ここで落とすわけにはいかない。それぞれ 1 問間違いを目標にしよう。配点は大問 4 が各 2 点、大問 5 が各 3 点である。大問 5 で 3 個以上間違えると大きく差がつくので、正答率を上げられるようにトレーニングしよう。並び替えは凡ミスが出やすいところだが、点数を落とすことは避けるようにする。

MAX 所要時間、大問 4 は 1 分半、大問 5 が 4～5 分。

大問 6

【2017年 経営／金融】

自分が生まれる前の時代に戻れるとしたら、いつの時代に行き、どんなことがしたいですか。80語以上の英語で説明しなさい。解答は記述解答用紙に書きなさい。

【形式】

80語以上の自由英作文。

【分析・アプローチ・MAX感想】

お題は自分の意見が書きやすいものが多く、また80語という限定的な長さのため、中身の構成に困ることは多くない。ただし、上記の大問6は仮定法や「～だろう」というwouldを使わないといけないようなケースもあり、難易度がややあがるものもある（ちなみにこの問題はこれまでの出題の中でもやや難しいほうに分類される）。

英作文の場合、内容面と文法・単語面という2つを意識しなくてはならないが、内容面は自分の意見に対して「なぜ」「どのように」という2つの観点を入れ、そこに具体例を入れて組み立てていく。また出題に正確にこたえること。上記の例でいえば、「いつの時代に行き、どんなことがしたいか」という要素を二つ答えていなくてはいけない。「〇〇に会いたい」だけでは「どんなことをしたいか」という答えにならず、「〇〇したい」という活動や行動を表現しなくてはならない。

文法面は安全志向になりすぎるのはよくないが、難しく書こうとせず、中3、高1までの平易なレベルでよいので構文を使いこなして、構成していくこと。最後にならず時制、動詞や目的語の有無（英作文では動詞がない文を書く生徒がいる）、受け身や現在完了の構文の形、三単現のs、冠詞など、基本文法を見直し、そこで点数が引かれないようにする。必ず読み直しの時間を2分はとりたい。

80語の英作文にしては、150点中10点と配点が低く（本来なら20点はあってよいもの）、あまりナーバスになりすぎずに、とにかく量をこなして、トレーニングしていくことで慣れていけばよい。英作文の練習は10月以降に2か月かけて行くとよいが、それまでに基本構文をどんどん書いて、単文レベルで表現ができるように練習したい。